

ヨハネ 17 章の祈り(パート2)

2008 年 12 月 14 日 アシエル・イントレーター

ヨハネ 17 章にある大祭司としてのイエシュアの祈りは3つに分けることができます。

まず、主は、世界が存在する前に御父と一緒に持っていた栄光でご自身を輝かせて下さるようにと祈っています。(1-5 節)

次に、主は弟子たちのために祈っています。(6-19 節)

そして、主は全世界に対し弟子たちが影響を及ぼすようにと祈っています。(20-26 節)

ヨハネ 17 章は諸国の信者たちのための祈りですが、信者たちがそれを用いて諸国の人々の元へ行って救うための祈りなのです。ヨハネ 17 章は世界宣教に対するイエシュアの祈りの戦略なのです。

ヨハネ 3:16 において、神の御心の恐らく最も深い叫び、すなわちすべての人が救われることを私たちは聞くのです。「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」神は全世界を愛しておられます。しかしイエシュアは、世のために祈っておられないことを言われました。

ヨハネ 17:9「**世のためではなく**」もし神が世を大変愛しておられるならば、なぜイエシュアは世のために祈らないのでしょうか。答えは戦略の1つです。世は救われなければなりません。しかし、世の人々は祈りにあまり敏感ではありません。彼らは福音の生きた証を見て、聞く必要があるのです。

真の信者たちは救われる必要はありません。彼らは祈りに敏感であり、世界の救いの証となることができます。イエシュアは信仰共同体が世界に対する証となるよう祈られました。これが世界宣教のための効果的な祈りなのです。

ヨハネ 17:21 「**あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。**」

ヨハネ 17:23 「**それは、あなたがわたしを遣わされたこと(中略)この世が知るためなのです。**」

何と単純で美しい戦略なのでしょう。イエシュアは栄光の中にご自身が現されるように祈られます。そして、主は弟子たちが信仰と愛によって歩くよう祈られます。主は弟子たちが人々に影響を及ぼすようにと祈られます。最終的に、主は、神の御体の愛と一致による証を通して、全世界が信仰に入ることを祈られます。

私たちも同じ戦略を用いましょう。

まず自分自身が神の恵みと栄光の中で歩むように。

次に世界中の真の信仰共同体のために。

最後に、世界中の人々が救われるように。

ヨハネ 17 章は諸国の信仰共同体が福音を分かち合うのに用いる祈りです。ヨハネ 17 章は、ヨハネ 3:16 が成就するようにと祈るイエシュアの方法なのです。

最新のニュース

スペインのユダヤ人

1300 年代から 1400 年代、カトリック圏のスペインとポルトガルにあったユダヤ人共同体は、カトリック聖職者が脅威を感じるまでに増加しました。その悲しい結果として迫害、宗教裁判、強制改宗そして最終的には 1492 年のスペイン、1498 年のポルトガルからの追放となりました。

これらの年にどれぐらいのユダヤ人が実際にカトリックに改宗したのか誰も知りません。しかし、最近の遺伝子研究により、ユダヤ人とスペイン人男性の Y 染色体が 20%を超える類似性を示しました。そのような調査により、14 世紀に改宗したユダヤ人の数は想像されるよりもはるかに多く、スペイン語とポルトガル語を話すユダヤ人の子孫の数は 5 人に 1 人であることを示すと思われます。

ナイジェリアのジョス(コンパス・ディレクト・ニュース)

不正投票が疑われる地方選挙に対する怒りにより、この街にある北のイスラム地区と南のクリスチャン地区の間で暴動が発生しました。11 月 28-29 日のイスラム教徒によるクリスチャンと彼らの資産に対する殺戮攻撃により、6名の牧師が殺害され、最低 500 名の人々が殺され、40 の教会が破壊されました。報道によれば、警察や軍隊は暴動を鎮圧するために約 400 名の暴れ回るイスラム教徒を殺害し、イスラム教徒たちは 100 名を超えるクリスチャンを撃ち、切りつけ、刺して殺しました。

イスラエル選挙

ギデオン・サール氏はベニヤミン・ネタニヤフ率いるリクード党において、予備選挙で1位を獲得しました。ギデオン・サール氏は福音的クリスチャンとの関わりのある議会委員会に所属し、クリスチャン共同体から好評を得ています。国政選挙は2月に予定されています。

インド

今週私たちのチームの何人かはゴア地区において S 師と C 師が指導する宣教活動に参加しました。ゴアは若いイスラエル人バックパッカーが楽しみ、罪、そして霊的経験を求めてやってくる人気ある旅行先です。エルサレム・ポストは今週、インドの國務長官である J.P.シン氏が アルカイダがゴアに対してテロ攻撃を企てていると警告を発したと報道しました。

契約の箱をエルサレムに

私は、ダビデ王が契約の箱をエルサレムに持って来ようとする事(Ⅱ サムエル6章)とメシアの福音をエルサレムに戻す現代のメシアニック運動との間に、霊的な類似点があるのを見ます。

最初の試みとして、ウザが手を伸ばして運搬する牛車から滑り落ちそうになる契約の箱に触れました。その瞬間彼は打ち殺されてしまいました。これが起こったのは、祭司の一族が契約の箱を棒に通して運ぶという神の法の重要性を彼らは正しく理解しなかったからでした。

二度目の試みとして、ダビデは王服を脱いで道で一般の農夫たちに混じって盛んに喜び踊りました。彼の妻ミカルはこれを不作法だと思いました。彼女は主の前に賛美と礼拝を大いに表現する重要性を正しく理解しなかったために罰せられ、不妊となりました。

これら二つの出来事は御国の福音をエルサレムにもたらすことに付随する二つの原則を指しています。それは、神の法の原則を尊重し、神に対する自由な賛美を熱心に行うことです。現代に言い直すならば、これら二つのものは、ユダヤルーツとカリスマ的表現と呼ぶことができます。

ある者はカリスマ的表現を求めますがユダヤの律法は無意味であると考えます。彼らはウザの誤りを犯しています。他の者はユダヤルーツを求めますがカリスマ的表現は単なる感情主義であると考えます。彼らはミカルの誤りを犯しています。

しかし、私たちは両方を求めます。聖霊による賜物と働きが十全であること、そしてユダヤルーツにおける契約と御国(王国)に対する重要性ということです。(興味深いことに、私たちのリバイブ・イスラエル宣教センターは契約の箱があったキリヤット・イアリム地域に位置し、アハヴァット・イエシュア・Congregationはエルサレムのダウントウンにあります。)